



首都大学東京 大学院

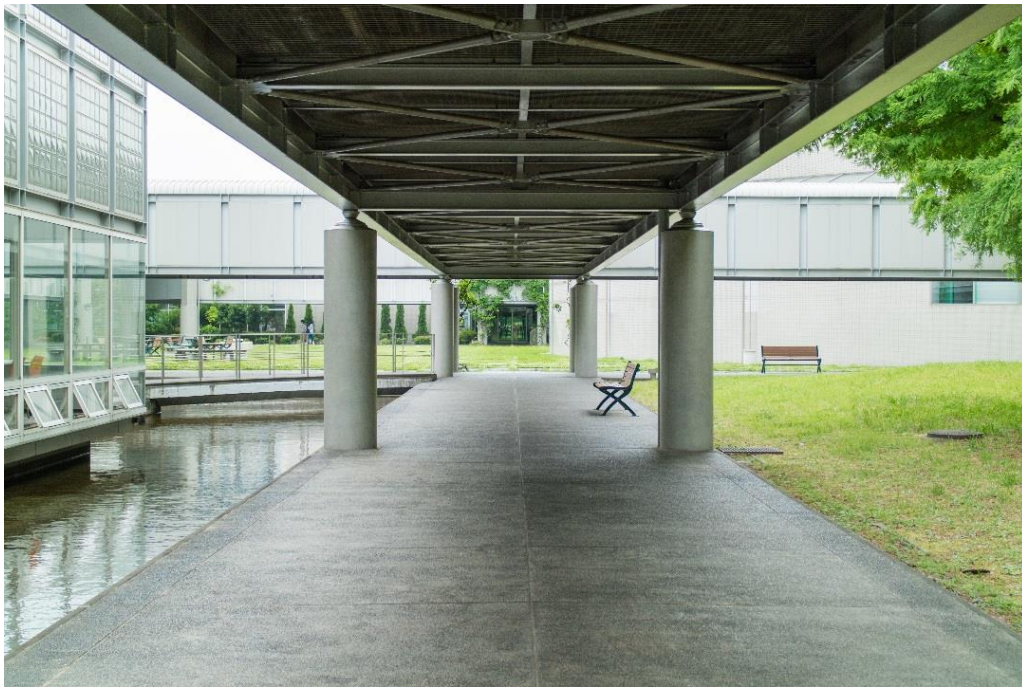
人間健康科学研究科

Tokyo metropolitan university, Graduate School of Human Health Sciences

Department of Nursing Sciences

看護科学域

研究分野の紹介



テーマ：大都市で生活する人々および地域の「健康」

看護科学の研究・教育を通じて個人と集団の「健康」に寄与し、
生活の質の向上と活力ある長寿社会の実現を目指す

看護科学域



看護学：知とアートの創造

■看護科学域では、大都市で生活する人々および地域の「健康」をテーマとして看護科学の研究・教育を行っています。近年の少子高齢化の問題や慢性疾患罹患患者の急激な増加に鑑み、健康長寿の伸延等を目的とした健康の維持・増進、生活習慣病や認知症などの疾病の予防および疾病からの回復、家族機能の維持・促進、終末期、医療者としての倫理の在り方などに焦点を当て、それらの健康課題を効果的・効率的に解決、支援する看護ケアについて個人レベルから地域のケアシステムモデル構築レベルまで発展させる研究を行なっています。博士前期課程においては、教育者、研究者の育成とともに高度な看護学の知識と技術を有する高度実践専門家（CNS）を育成しています。博士後期課程においては、研究者、教育者として看護科学の発展に寄与し、保健医療・福祉の分野でのリーダーとなる人材を育成しています。

○育成期看護学分野

助産学：助産学領域について理論・方法論を総合的に研究する。

リプロダクティブヘルス看護学：リプロダクティブヘルス看護学領域について理論・方法論を総合的に研究する。

小児看護学：小児看護保健領域について理論・方法論を総合的に研究する。

○成熟期看護学分野

成人看護学：成人とその家族の健康課題等について理論・方法論を総合的に研究する。

高齢者看護学：高齢者とその家族の健康課題等について理論・方法論を総合的に研究する。

○広域看護学分野

在宅看護学：在宅看護・地域ケアシステムについて理論・方法論を総合的に研究する。

公衆衛生看護学：公衆衛生看護学について理論・方法論を総合的に研究する。

地域精神看護学：地域精神保健問題等について理論・方法論を総合的に研究する。

国際看護/医療人類学：医療人類学的視点をいながら国内外の看護/医療の対象者を様々な視点から研究する。

○看護倫理・管理学分野

看護倫理学：実践における倫理的諸課題等について総合的に研究する。

看護管理学：「質の保証」を可能にする看護提供システム等について総合的に研究する。

助産学

(助産学をより探究するため、平成26年度に母性看護学から名称を変更しました)

安達 久美子・菱沼 由梨

- 助産学の研究コースです（助産師の資格取得のためのコースではありません）。
- 周産期及び、女性の生涯全般を通しての女性とその家族の健康に関する幅広い課題に取り組んでいます。学生は、助産師の経験の中で、様々なリサーチクエスチョンを持ち、女性とその家族により良い助産ケアが提供できることを目標に研究に取り組んでいます。
- ヨーロッパ、北米、中国、ネパール、モンゴル、ベトナムなど、海外の研究者、助産師との交流を続けています。

これまでの学生の研究テーマ【抜粋】

- 看護系大学生の加齢に伴う妊孕性低下に関する知識およびキャリア成熟と希望出産年齢の関連
- 助産師の妊娠期の会陰ケア実施と関連要因
- 子育てひろばに通う母親の居住年数の違いによる「付き合い・交流」の実態
- 就労女性のライフコース観と避妊行動の関連について
- ハイリスク母子に携わる保健医療福祉専門職者の「多職種協働」への認識に関する調査
- 妊娠による骨盤の変化と分娩の関連
- 妊婦の腹部深部体温と腹部皮膚表面温の実態

学生の研究成果発表【抜粋】

前期課程・後期課程ともに、特に、英語での成果発表支援をしています。

- ◆Occupational stress experienced by Japanese midwives: BJM,22(11),801-806,2013.
- ◇Factors associated with post-natal anxiety among primiparous mothers in Nepal: International Nursing Review, 61 (3): 427-34,2014.
- ◆Translation and validation of the Karitane Parenting Confidence Scale in Nepali language: Midwifery, 36, May, 86-91,2016.



学生が受けた研究助成

～研究助成の申請への支援をしています～

- 科学研究費補助金 平成29年度 実績 3件
- ファイザーヘルスリサーチ研究助成

助産学領域教員スタッフ：教授 安達久美子 准教授 菱沼由梨 助教 佐藤香

リプロダクティブヘルス看護学

木村 千里・園部 真美

当領域では、リプロダクティブヘルス（性と生殖に関する健康）を基盤概念とし、思春期・成熟期・更年期・老年期など各ライフステージにおける女性と家族の健康支援に関する理論・最新の知見・技術を学び、女性の生涯を通じた健康課題に対する看護支援を探究するための研究手法を学びます。また、マタニティステージにある女性と家族の健康、wellbeing を促進する包括的なトレーニングを受ける機会を提供します。これらの研究活動を通じて、母子ケアとウィメンズヘルスの領域で活動する研究者が集まり、絆を形成する場を醸成します。さらに、研究成果が看護実践、看護ケアを受ける女性と家族の健康を改善するというエビデンスをヘルスケア政策に結び付けるよう研鑽していきます。

博士前期課程

リプロダクティブヘルス、ウィメンズヘルスに関する歴史・社会的背景、国際的動向を知り、女性と家族の健康課題に関する理論・概念、研究成果の活用方法を理解するとともに女性のライフサイクル各期における健康課題、リプロダクティブヘルスの課題について理解を深めます。

また、リプロダクティブヘルス、ウィメンズヘルスを促進するための実際の看護実践場面への参与により女性とその家族への支援活動の課題について考察したうえで、研究に取り組んでいただきます。



生と性の教育



母乳育児支援



最近の研究テーマ

- ・ Antenatal/Postnatal Promotional Guide を用いた地域母子支援活動
- ・ 育成期の母子支援活動とサービスラーニング
- ・ 健康上の問題をもつ周産期、育児期の女性に対する健康教育
- ・ 母乳育児支援と健康教育
- ・ 周産期の困難家族と家族支援
- ・ 児童と家族に対する生と性の教育



小児看護学

山本美智代 種吉啓子



小児看護学領域では

子どもと家族への看護の質を高めることを目指しています

博士前期課程

＜小児看護専門看護師（CNS）コース＞

子どもが病気や障害をもつことによって生じる子どもと家族の変化について査定する方法、査定によって明らかになった看護上の問題に対して援助する方法など、講義やゼミを通して小児看護専門看護師として必要な知識を習得します。また、実際に小児看護専門看護師の指導のもとで実習を行い、より実践に応用できる知識と技術を学びます。



＜論文コース＞

小児看護学領域で重要と考えられる概念や理論を理解します。また、子どもの発達や健康に関する課題とその影響について家族を含めて捉え、査定をする技術、方略を学びます。さらに、小児看護学における研究の動向と課題を明らかにしたうえで、研究に取り組みます。



博士後期課程

小児看護学領域で重要と考えられる概念や理論を分析し、新しい概念や理論の構築を目指します。

小児看護学における研究の動向と重要課題について、文献レビューやフィールドワークを通して明らかにしたうえで、子どもと家族への看護実践の質の向上が期待でき、かつ、看護学の発展に寄与できるような研究に取り組みます。

最近の研究テーマ

- ・障がいのある子どもの家族への看護
- ・病気や障害のある子どものきょうだいの成長に関する研究
- ・災害時における在宅障害児の直面する問題とその防止に関する研究
- ・小児看護における家族支援



成人看護学

西村 ユミ・福井 里美

成人看護学領域（前期課程・後期課程）では

成人期にある人々やその家族への看護実践のあり方を捉え直し、
新たな視点や方法を創造していくことをめざします。

成人看護学領域では、より良い看護実践を実現するために、病いを患う人々の経験の理解に関心を向けています。

人々は、生活をしながら、病院や施設などで治療を受けたり療養をしたりしています。その経過の中で、同じような病い経験をした者が集まって患者会・家族会を作ったり、生活の知恵を交換し合ったりもしています。研究科の授業や演習では、こうした経験や営みを理解して援助を行うための思想や理論、方法論について検討します。

他方で、看護実践の編成のされ方にも関心を向けています。これは、看護の「実践知」を探求することにも繋がります。

看護職の皆さんは、実践において、まずは患者の状態の方に関心を向けられています。そのため、自分自身がいかに実践や経験をしているのかについて、自覚したり言語化したりすることは難しいのではないのでしょうか。

成人看護学領域では、授業や演習での議論、文献レビューや調査などを通して、自分のものの見方や実践の仕方を捉え直し、そのうえで、看護実践の新たな見方や技術を創造することをめざします。さらに、こうした知恵や技術を“継承”していくための方法論について検討します。

これらの検討をもとに、各自が研究課題に取り組み、看護実践現場での問題解決能力、教育、指導力の向上を目指します。さらに、成人看護学の新たな知恵を創造します。



【成人看護学領域の教員・大学院生の研究テーマ】

- ◆ 急性期看護場面の実践知に関する現象学的研究
- ◆ がんサバイバーへの心理社会的支援の実践研究
- ◆ しびれている身体で生きる経験とその意味—回復期にある中枢神経障害患者に注目して
- ◆ 病院を変わった看護師の経験の意味
- ◆ 長期の経過をたどる2型糖尿病患者の生活における病いの経験—10年を経て語り直すということ—
- ◆ 病棟における看護師長の看護実践に関する研究
- ◆ 救命救急センターにおける家族への看護実践

高齢者看護学

勝野 とわ子・増谷 順子

高齢者看護学領域では、大都市における「活力ある長寿社会」を実現することを目指し博士前期課程に論文コースがあります。人々のより良い健康と生活を支え、看護科学を発展させるリーダーとして新たな「知」の創造を目指す研究者・教育者を育成しています。国際交流にも積極的に取り組んでいます。



香港大学との国際交流



看護技術のシュミレーションラボにて

◇最近の研究テーマ

若年認知症者へのケア方法および地域ケアサービスプログラムの開発・評価

災害看護教育プログラム開発、「災害時要援護者」への看護支援システムの構築、
認知症者および家族の QOL, reminiscence、高齢者および認知症者の介護家族の健康、介護負担、看護教育・研究・実践の国際化方略など

◇その他の研究テーマ：がん患者の看護支援方法、高齢者看護の人材育成に関する研究、など。

◇平成 27 年度～科学研究費基盤研究（C）若年認知症家族介護者の健康支援に関する看護技術開発



高齢者看護学教授 勝野とわ子

大学院生のテーマは多岐にわたり、療養環境に関連した聴覚刺激に対する生理的、主観的反応、認知症者への音楽介入の効果、災害時における「災害時要援護者」への支援と看護者の役割、認知症者・家族への看護支援方法、認知症ケアにおける環境的介入、パースィ看護理論の検証研究、高齢糖尿病患者のセルフケア支援、終末期高齢癌患者のケア、終末期の看取りケアなどが選択されています。講義は、高齢者看護、認知症ケアの理論、技術などの専門的知識、地域看護、災害看護、高齢者の健康評価などがあります。演習・実習ではヘルスアセスメントはじめ高度な実践能力およびリーダーシップ能力開発を目指しています。

在宅看護学

河原 加代子・島田 恵

在宅看護学領域（下図）では、地域ケアシステム・在宅看護分野の課題に関連する諸理念、理論、研究方法を学習し、課題解決のプロセス及び実践と評価方法についても探求し、その成果を研究としてまとめる能力を育成します。

●博士前期課程

関心ある現象について概念（変数）を特定し、データ収集の方法、分析方法の基礎を学びます。次に特別研究で取り組むテーマについて国内外の研究の動向、理論および主要概念、研究方法について文献レビュー、実地踏査を行う演習形式を組んでおります。

●博士後期課程

学生が志向する地域ケアシステム・在宅看護分野の課題分析及び看護介入の方法論の開発にむけた能力をフィールドワークを通して養います。

<学位論文テーマ>

博士論文

「保健師による事業化に必要なストラテジーの構造」(H25 年度)

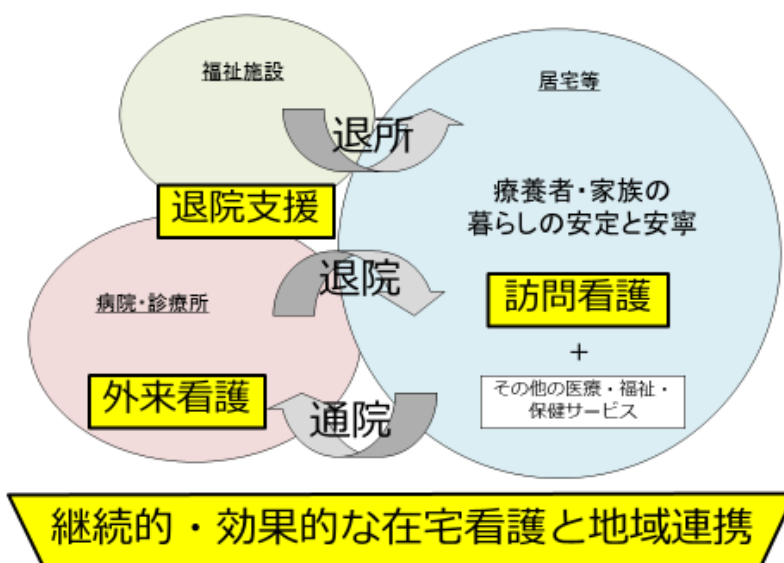
「要支援高齢女性の社会活動尺度の開発」(H24 年度)

修士論文

「医療的ケアを必要とする子どもの体調の変化に初めて直面した母親の判断に関する研究」(H27 年度)

「外来患者の主体的な受療継続を支援する専門性の高い外来看護師の実践」(H27 年度)

「人生の終末期の生き方の意思決定の特徴と関連する要因」(H27 年度)



在宅看護学領域では、博士前期課程に論文コースと CNS コースが用意されており、CNS コースは日本看護系

大学協議会において在宅看護専門看護師^注教育課程として認定を受けております。H27 年度には 3 名の在宅看護分野の専門看護師が育っております。外来看護師の立場で在宅 CNS で活躍する人材が誕生しています。

●在宅看護専門看護師(26 単位教育課程)専攻は、在宅看護専門看護師として求められる 6 つの能力（卓越した実践、教育、相談、連携調整、研究、倫理的問題の調整）を高めるため、在宅看護スペシャリストとしての役割を担う実習が組まれております。（注 1：専門看護師となるには、大学院修了後に所定の手続きが必要です。注 2：平成 28 年度～在宅 CNS26 単位教育課程の継続申請の承認を得て実施しております）

公衆衛生看護学

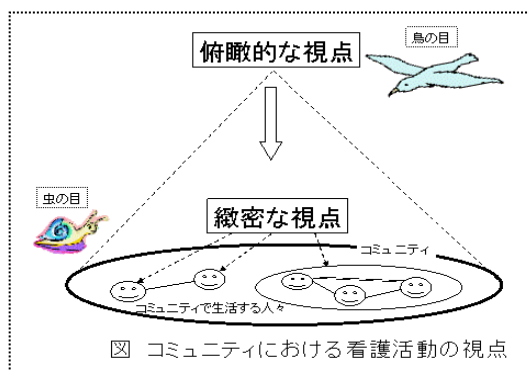
齊藤 恵美子 吉羽 久美

公衆衛生看護学は、個人や家族、地域全体の健康と生活の質の向上に寄与する実践に役立つ科学です。地域で生活している人々とその家族や、様々なつながりをもった人々の集団を対象としています。

保健師の実践に関連する領域のため、大学院では、保健所等の行政機関や企業、地域包括支援センター、病院などで様々な実践経験を積んだ学生や、現場の保健師も社会人学生として学んでいます。探求したいテーマをもって、日頃の実践を向上しようと考えている看護職の方々の、主体的な研究活動を支援したいと考えています。

博士前期課程での目標

1. 公衆衛生看護学の理論、実践、研究による最新の知見を評価する
2. 公衆衛生看護学の知見としての研究を展開し、実施する
3. 多様で多文化的な集団を対象として、根拠に基づく公衆衛生看護実践の適用を評価する
4. 研究に関する倫理的課題と責務について、明確に述べる
5. 健康の向上を促進するためのリーダーシップの方法を活用し、身につける



博士後期課程での目標

公衆衛生看護学の実践と教育の科学的根拠について追求し、前進させる能力を養う

研究分野

公衆衛生看護実践、コミュニティ・アセスメント、地域高齢者の介護予防

※学位論文テーマ等の教育・研究活動の詳細は、以下のホームページをご覧ください。

公衆衛生看護学分野ホームページ : <http://weber.hs.tmu.ac.jp/phn/index.html>

Public Health Nursing SAITO Emiko, PhD, PHN, RN

Goals of the Master of PHN Program

1. Evaluate the current state of knowledge in public health nursing as it informs theory, practice and health care research.
2. Develop and implement a research study in public health nursing knowledge.
3. Evaluate the application of evidence-based practice of public health nursing among diverse and multicultural populations.
4. Articulate ethical issues and responsibilities involved in health care research.
5. Develop and utilize leadership approaches that foster improvement of health care.

Goals of the PhD of PHN Program

Develop capabilities to explore and move forward the scientific evidences for practice and education in public health nursing.

Fields of research

Public health nursing practice, Community assessment, Preventive long-term care for community-dwelling elderly

Education and Research

Predictors of certification for long-term care need in community-dwelling older adults

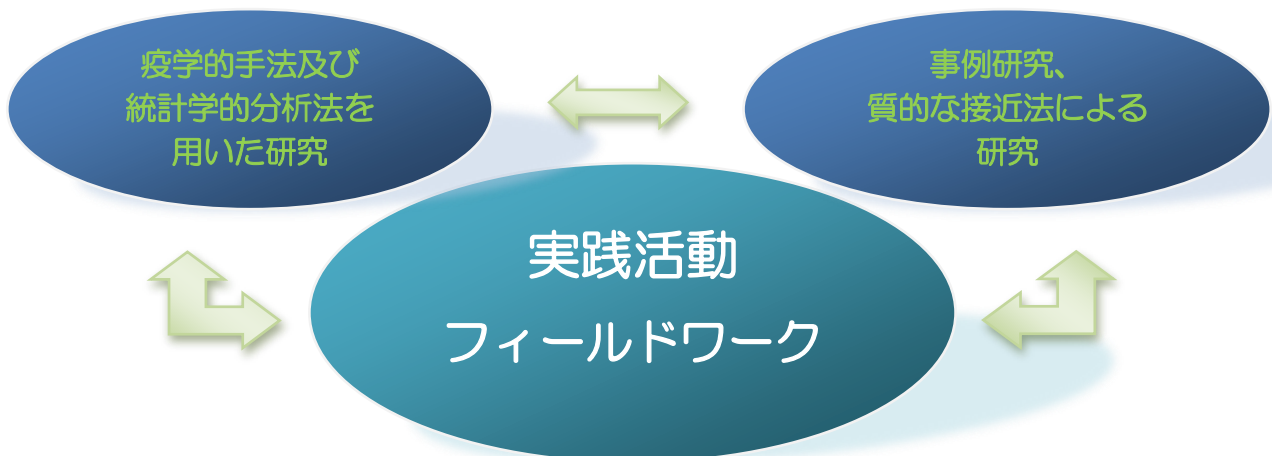
Social support as predictors of health status among older adults living alone in Japan

地域精神看護学

山村 礎^{*}・廣川 聖子

※印の教員は本年度は学生を受け入れない

精神看護学の、社会的な、あるいは看護学における役割の特徴は、ライフサイクルを超え、療養の場所を越え、さらに精神障害の有無をも超えた全人的な対象設定をおこなうところにあります。こうした広範な対象に対して一方では脳科学などの先端分野から、他方では日常的な人と人のおつきあいまで参照、援用すべき素材もまた広範囲に点在しています。これらの知見を可能な限り援用しつつ、精神的な問題を抱えた方々、その関係者、あるいは援助者としての看護職にとって役立つ知見や考え方、または、具体的な生活の知恵、手のさしのべ方などの方法論を提示していくことを目的とする研究室です。



最近の研究テーマ (学位論文テーマを含む)

- 精神障害者に対するセルフスティグマ評価尺度についての研究
- 精神障害者の服薬に関するコンプライアンス、アドヒアランスの検討
- 地域における虐待予防も含めた母子援助方法論の検討
- 高校生の精神的諸問題についての対処方策と自己の求助行動傾向との関連
- 看護学実習における精神障害に対する態度の変化に関する研究
- 精神障害者がサービスを活用する際の自己関与に関する研究
- 精神科訪問看護師が捉える再発重病化予測因子の検討
- 地域で生活する統合失調症患者の服薬行動と服薬態度に関する検討

国際看護/医療人類学

野村亜由美



看護における医療人類学の位置づけ

1. 看護系大学では、学部の一般教養の選択科目として「医療人類学」を開講しているところがありますが、大学院教育で看護教員が「医療人類学」を教えるのは本学が初めてだと思います。
2. 「医療人類学」は対象となる国や人びとの「人間」「健康」「病気」「医療」について多角的に学ぶ学問領域であるため、「国際看護」と親和性の強い基礎看護系の領域です。自分とは異なる文化の人たちの病気観や治療行動が、その人たちが暮らす文化的/社会的背景とどのように結びついているのかを理解し、看護/医療の対象となる人びとが抱えている問題はなにか？健康状態が改善しないのはなぜか？健康状態や生活がより良く改善するにはどのような関わりが必要か？なにが人びとの間で問題になっているのか？などについて考えます。
3. 「医療人類学」を学びたいと思う人は、国際協力で海外から帰国したボランティア経験者や、海外の医療に関心がある看護師が多いと思います。学部で「文化人類学」の基礎知識を学んでいないので、「医療人類学」を学ぶことは難しいと思うかも知れませんが、医療人類学も看護学も「人間とはなにか？」について探求する学問という意味では共通しています。
4. 本コースでは、医療人類学の基礎知識をまなびながら、日本国内のみならず、途上国における医療問題や健康問題を、フィールドワークを通して現地の人とともに考え、彼らの健康状態の改善に向けた取り組みについて考察し、将来的にグローバルな場で活躍できる専門職者の育成を目指します。



看護倫理・管理学

習田明裕 石川陽子

看護倫理学

看護は「人」を対象とする実践の科学であり、人間を尊重すること、つまり人権を尊重することが、看護が看護たり得る基盤となる重要な理念です。看護倫理学研究室では、こうした理念のもと、医療現場が抱える様々な倫理的課題、例えば高度先進医療における「インフォームドコンセント」の問題、患者の安全を守るという名目で行われてきた「身体拘束」の問題、療養の環境が施設から在宅へとシフトする中で生じてきた「訪問看護師の葛藤」など、その実態を探るとともに、看護職としてどう対応していけばいいのか探求してきました。

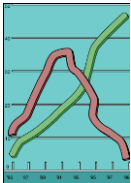
現在は主に、臓器移植、特に健康な人から臓器提供を受ける生体移植や、脳死移植現場における看護職の倫理的葛藤について、看護の視点から研究を進めています。

Ethics

研究テーマ

- 臓器移植看護における看護師の役割・機能に関する研究
- 看護職が直面する倫理的課題の探索およびその対応
(移植看護、手術看護、ICU看護、救命救急看護、認知症看護、他)
- 利用者の尊厳や権利を尊重するケアの方法及びシステムの開発・・・など

看護管理学



看護管理学とは、保健・福祉分野における人的・物的・経済的資源の効果的・効率的なマネジメントを体系化していく学問です。このようなマネジメントスキルは管理者のみに求められるのではなく、全ての看護職者に必要とされるものです。また、看護のあり方は医療制度・政策に大きな影響を受けるため、患者・国民の健康の維持・増進に必要な看護や医療提供体制についてエビデンスに基づく政策提言を

していくことが必要です。

看護管理学教室では、現存する課題の解決や将来の看護提供体制の検討に資する研究を行っています。演習では看護倫理学教室と合同で厚生労働省や日本看護協会等で幅広い看護の役割について学びます。



研究テーマ

- 看護師の専門職性に関わる研究（多職種連携、人材育成、他）
- 看護師の国際的移動に関する研究
- 医療の対象者に向けた「看護」の可視化と数量化に関する研究
- 効果・効率的かつ安全なケアの方法及びシステムの開発・・・など

看護科学域 博士前期課程				
分野		指導教員		
育成期看護学	助産学 (助産師資格取得のコースではありません)	教授	安達 久美子	直通 03-3819-7248 mwadachi[at]tmu.ac.jp
		准教授	菱沼 由梨	直通 03-3819-7250 yuri_hs[at]tmu.ac.jp
	リプロダクティブヘルス看護学	准教授	木村 千里	直通 03-3819-7403 ckimura[at]tmu.ac.jp
	小児看護学	教授	山本 美智代	直通 03-3819-7390 ymichiyo[at]tmu.ac.jp
准教授		種吉 啓子	直通 03-3819-7410 taneyosi[at]tmu.ac.jp	
成熟期看護学	成人看護学	教授	西村 ユミ	直通 03-3819-7255 yumin[at]tmu.ac.jp
		准教授	福井 里美	直通 03-3819-7256 satomif[at]tmu.ac.jp
	高齢者看護学	准教授	増谷 順子	直通 03-3819-7209 masuya[at]tmu.ac.jp
広域看護学	在宅看護学	教授	河原 加代子	直通 03-3819-7404 hu_yuan[at]tmu.ac.jp
		准教授	島田 恵	直通 03-3819-7204 megumi[at]tmu.ac.jp
	公衆衛生看護学	教授	斉藤 恵美子	直通 03-3819-7418 saito[at]tmu.ac.jp
	地域精神看護学	教授	*1 山村 礎	直通 03-3819-7217 yamamura[at]tmu.ac.jp
		准教授	廣川 聖子	直通 03-3819-7240 hiro-s[at]tmu.ac.jp
	国際看護/医療人類学	准教授	野村 亜由美	直通 03-3819-7241 ayumin[at]tmu.ac.jp
看護倫理・管理学	看護倫理学 看護管理学	教授	習田 明裕	直通 03-3819-7394 shuda[at]tmu.ac.jp
		准教授	石川 陽子	直通 03-3819-7185 ishikawa[at]tmu.ac.jp

*1 平成30年度は学生募集をしない

看護科学域 博士後期課程				
分野		指導教員		
育成期看護学	助産学	教授	安達 久美子	直通 03-3819-7248 mwadachi[at]tmu.ac.jp
	小児看護学	教授	山本 美智代	直通 03-3819-7390 ymichiyo[at]tmu.ac.jp
成熟期看護学	成人看護学	教授	西村 ユミ	直通 03-3819-7255 yumin[at]tmu.ac.jp
広域看護学	在宅看護学	教授	河原 加代子	直通 03-3819-7404 hu_yuan[at]tmu.ac.jp
	公衆衛生看護学	教授	斉藤 恵美子	直通 03-3819-7418 saito[at]tmu.ac.jp
	地域精神看護学	教授	*2 山村 礎	直通 03-3819-7217 yamamura[at]tmu.ac.jp
看護倫理・管理学	看護倫理・管理学	教授	習田 明裕	直通 03-3819-7394 shuda[at]tmu.ac.jp

*2 平成30年度は学生募集をしない